



WR230.025



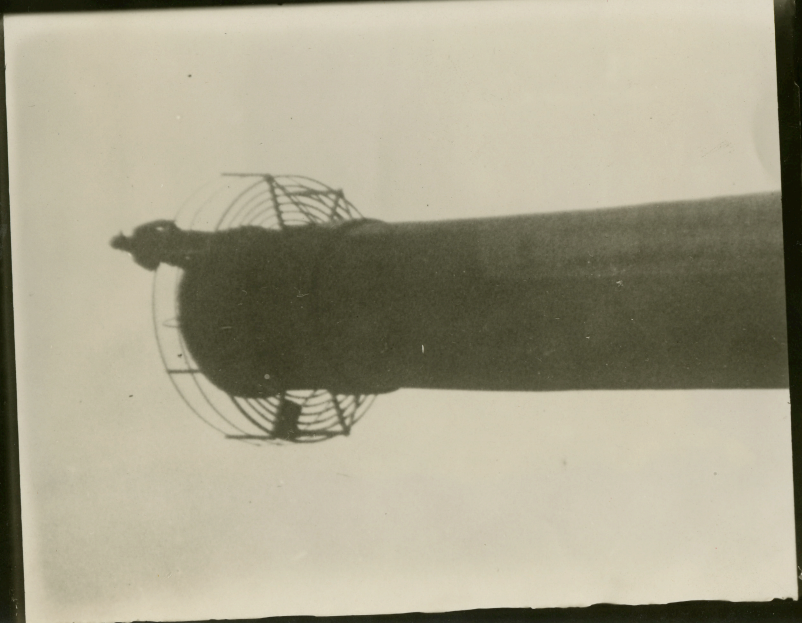
谷合 東京新聞 昭和十一年十二月二十日

◎東京の夜を歩く人の姿

一平野の闇に人々の影が伸びる

夜の東京は、静かに歩いている人々の影が伸びる。街灯の光が、人々の姿を照らし、影を長く伸ばす。静かな夜の東京、人々の歩む姿が、静かに歩いている人々の影が伸びる。

夜の東京は、静かに歩いている人々の影が伸びる。街灯の光が、人々の姿を照らし、影を長く伸ばす。静かな夜の東京、人々の歩む姿が、静かに歩いている人々の影が伸びる。





S20105222M

◎凍え死ぬ様な雨の夜の寒さも

1 平氣の超人まだ降りる氣配なし

初冬の氷のやうな雨は瀟々として夜に入つても止

みそうもな、富士紡川崎工場百三十尺の煙突上に

滯空百二十餘時間の記録を作つて尙泰然としてゐ

る超人田邊潔君下界の同志の心配も本人は泰外感

じぬらしくあくまでも初志の貫徹するまで断じて

隣りぬと頑張つて身を切るやうな雨の夜の中空に

たゞずんでゐる附近はこの男のため湧きかへるや

うな騒々しさで川崎署も會社も今はこの男のなす

がまゝに傍觀するより仕方がない様である。

寫眞は

今日雨の降る夕刻の煙突と夜に入つた附近の見物

人(午後六時寫す)